

## 日本国際看護学会 第一回 関西研修会報告

開催日：平成30年2月18日（日）13:00～16:30

会場：京都光華女子大学 太子堂

平成30年2月18日（日）京都光華女子大学で23名が参加し「グローバルナーシングのこれから」に関する研修会が開催されました。講師に、愛知県立大学看護学部教授の柳澤理子先生を迎え、「グローバルナーシングのこれから」というテーマで研修が行われました。1部の柳澤先生のご講演で、2部では講演を踏まえて、参加者の皆様に「グローバルナーシングのこれから」について考えました。講演では、グローバルナーシングの定義を明確にし、国際社会における健康問題を取り上げて、柳澤先生が関わってきた母子保健に関する内容のことを教授された。また、「国際間比較研究・共同国際間比較研究」にも言及した。最後に、「グローバルナーシングのこれから」として、領域・人材・公平性に分けて、「リプロダクティブ・ヘルスや感染症対策で、不十分な領域、これまで関心が薄かった領域への介入」「高齢者へのケア」「国際看護／国際保健分野の人材育成」「学内の教員の関心をどう高めるか」「特別な配慮が必要な人々への公平性」などについて講演をされました。また、Ⅱ部のグループワークでは、「講演で学んだこと」「皆様が考えるグローバルナーシングのこれから」について議論し発表も行われた。「学内の関心の向上」「在留外国人患者の増加に伴うケア」「大学院だけでなく、臨床看護師が海外へ行ける機会を増やしていく」「在留外国人に対する制度の理解、多言語化の促進」「各国のスタンダード、例えば拘束の問題を理解する」など、グループメンバーから、グループで考えた内容を具体的に聞く機会となった。グループの発表を受けて、柳澤先生より、医療通訳の重要性を強調された。柳澤先生をはじめとするグループメンバーで「グローバルナーシングのこれから」について考える機会となった。

### 研修会の様子

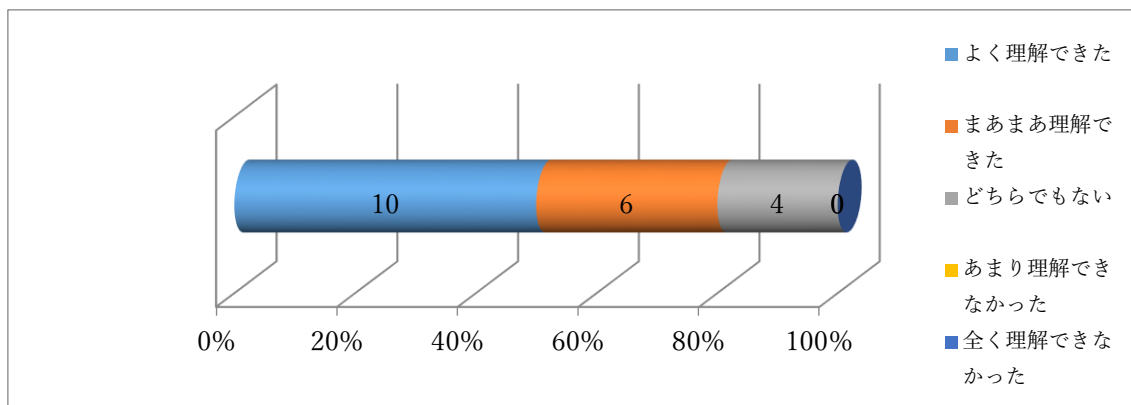




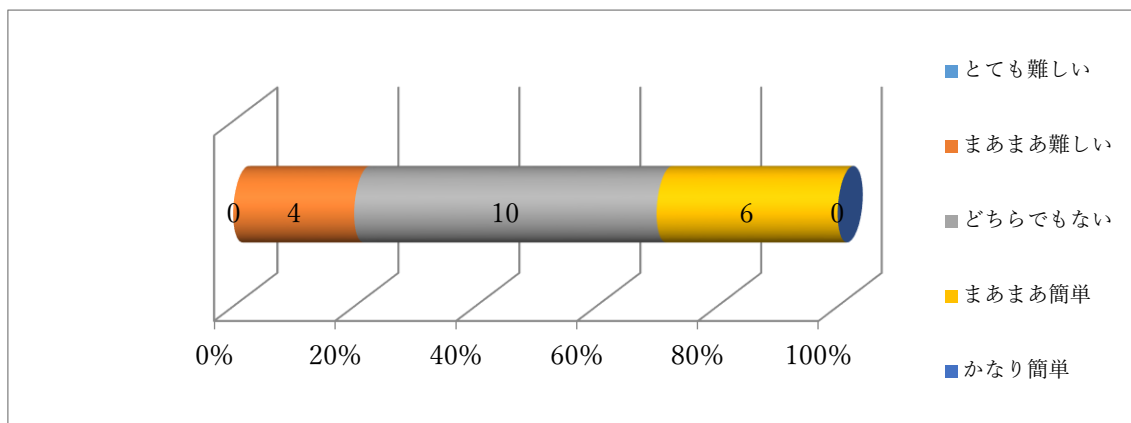
## 参加者からのアンケート報告

参加者アンケートのうち掲載同意がとれた、20名を対象。

- ① 「講義内容について理解できましたか」では、「よく理解できた」10名(50%)で、「まあまあ理解できた」6名(30%)「どちらでもない」4名(20%)であった。



- ② 「研修の難易度はいかがでしたか？」では、「とても難しい」0名、「まあまあ難しい」4名(20%)、「どちらでもない」10名(50%)、「まあまあ簡単」6名(30%)であった。



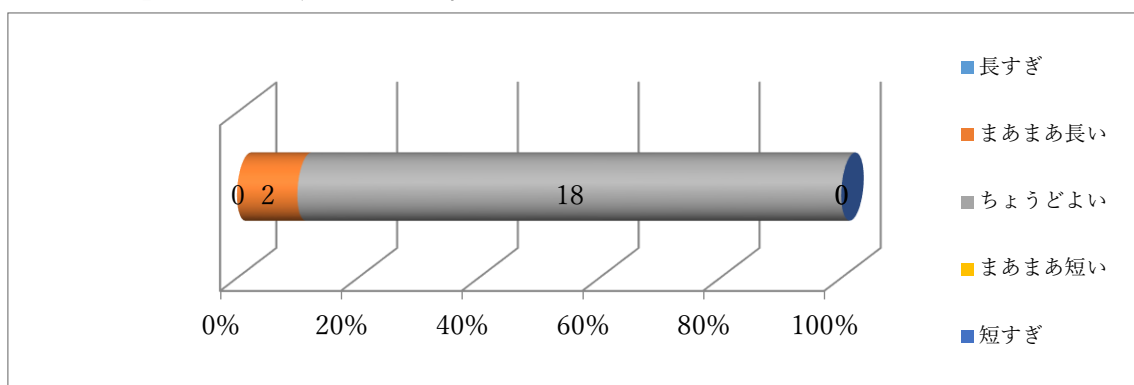
### ③ 一番印象に残った内容は何ですか？（一部のみ）

- 研修で交流ができて、情報交換できて良かったです。
- グローバルナースングのこれからの人材の所が印象に残りました。
- 妊婦の問題
- グローバルナースングのこれからの人材の所が印象に残りました。
- 高齢社会・慢性疾患を抱えた日本において、海外に出なくても頑張ることで世界に発信できることもあると思うことができました。

④ 参加する前と参加した後ではあなた自身どのような変化がありましたか。(一部のみ)

- 日本しか知らない自分はとても狭い世界でいたのだと思いました。
- 病院内での通訳士の必要性、言葉の壁の大きさを感じた。
- 私は、国際看護教員ですが、医学ベースなので、看護としての国際を理解でき大変勉強になりました。
- グローバルナースングについての知識や認識が少し変化した。

⑤ 「内容に対して時間は適切でしたか？」では、「まあまあ長い」2名(10%)、「ちょうどよい」18名(90%)であった。



⑥ 進め方や情報量はいかがでしたか？(一部のみ)

- バランスがよかったです。
- 時間に対して丁度良かったと思います。

⑦ 研修会を受講し、今後どのような行動を取られますか。(一部のみ)

- 国際看護の授業に役立てたい。国際的研究の仕方
- 今後の研究課題に役立てたいと思います。組織のトップを育てられるように努力したい。また、組織のトップを目指して努力したい。
- スタッフに対して、日本にいても外国人と関わることも多いため、グローバルナースングの必要性について伝えてみようと思う。
- 言語だけでなく文化までカバーが出来ればと思います。
- 異文化を受け入れる理解をしようとする心を持つことが大切であり、そのことを周囲の医療者へ伝えたい。

⑧ 現在、国際看護実践・研究であなた自身が悩まれていることは何ですか。(一部のみ)

- 日本の当たり前が通用しないこと
- 海外への治療を必要としている方へのアプローチ方法
- 「学生に何を伝えていくべきか」ということです。